

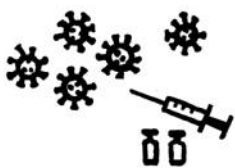
18日の朝、東京大病院内で、新型コロナウイルス感染症のワクチンを接種しました。打った直後は痛みなどの症状はほとんどありませんでした。しばらく様子をみて、すぐに仕事に戻りました。

ただ、翌朝から打った左肩が痛み始めました。痛みのピークは翌日の午後で、2日目には消えました。2回目の接種は3週間後です。

私が接種を受けたこのワクチンは、mRNA（メッセンジャーRNA）医薬品の第一号です。mRNAは核のなかのDNAから遺伝情報の一部を転写して作られるもので、これをもとにアミノ酸が連結されてタンパク質が合成されます。mRNA医薬品は、人

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

株式会社とあります。ただ、その下に「BIONTECH」の名前もありました。

このコミナティというワクチンの開発には、独バイオ企業「ビオンテック」が中心的役割を果たしました。このワクチンの開発コードが「BNT」で始まることでも分かっています。

ドイツの古都マインツに本

独社のがん治療技術、ワクチンに

工的に作成したmRNAを投与し、特定のタンパク質を体内で作らせる医薬品です。新

型コロナウイルスが持つスパイクだけを作らせるmRNAを注射することで、ウイルス

に対する抗体が作られ、免疫が整うこととなります。

ワクチン接種後に受け取った「新型コロナウイルス接種記録書」には「コミナティ筋注」、製造販売：ファイザー

型コロナウイルスが持つスパイクだけを作らせるmRNAを注射することで、ウイルス

に対する抗体が作られ、免疫が整うこととなります。

ワクチン接種後に受け取った「新型コロナウイルス接種記録書」には「コミナティ筋注」、製造販売：ファイザー

拠を置くビオンテック社は、トルコ生まれの移民で医師のウグル・サヒン氏が、やはりトルコ系の医師である妻と2008年に設立しました。もともと、夫妻の関心はがん治療にありました。実際、2001年に設立した最初の会社（ガニメド社）では、胃がんなどに発現しやすいタンパク質をターゲットにした「抗体治療薬」の開発を行ってきました。なお、ガニメド社は日本のアステラス製薬に約500億円で買収され、抗体薬「ゾルベツキシマブ」の臨床試験が世界規模で進んでいます。

型コロナウイルスが持つスパイクだけを作らせるmRNAを注射することで、ウイルス

に対する抗体が作られ、免疫が整うこととなります。

ワクチン接種後に受け取った「新型コロナウイルス接種記録書」には「コミナティ筋注」、製造販売：ファイザー

拠を置くビオンテック社でもmRNAを使ったがん治療の開発が進んでおり、これが短期間でワクチン開発につながりました。がん治療への情熱と技術開発の蓄積が、コロナ収束に向けた切り札につながったといえます。

（東京大病院准教授）